

会 議 録

会議の名称	第1回戸田市都市マスタープラン推進委員会
開催日時	令和6年7月8日(月) 10:00~12:00
開催場所	戸田市役所 5階 501会議室
出席者氏名 (委員)	山碓康之(委員長・都市整備部次長)、熊木智洋(副委員長・まちづくり区画整理室長)、雨宮博子(危機管理防災課長)、清水明(企画財政部次長兼資産マネジメント推進室長)、細井高行(環境経済部次長兼環境課長)、野崎実治(経済戦略室長)、梶山浩(教育委員会事務局参事)、東口俊博(水安全部次長兼水安全部総務課長)
欠席者氏名 (委員)	—
事務局	【戸田市 都市整備部 都市計画課】 今泉課長、堀江主任、笠原技師、早間主事補 【セントラルコンサルタント株式会社】 小坂、中村、宝満
内 容	(1) 第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について (2) その他
会議結果	別紙(会議の経過)のとおり
会議の経過	別紙(会議の経過)のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 戸田市都市マスタープラン推進委員会設置要綱 ・資料2 戸田市都市マスタープラン見直し検討委員会要綱 ・資料3 戸田市都市マスタープラン推進委員会委員名簿 ・資料4 戸田市都市マスタープラン推進委員会の役割について ・資料5 第3次戸田市都市マスタープラン 全体構想(現状と課題)について ・資料6 第3次戸田市都市マスタープラン 全体構想(資料編)について
議事録確定	委員長 山碓康之

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<u>1 開会</u> (事務局開会挨拶) (資料及び議題の確認)
委員長	<u>2 委員長挨拶</u> (山碕委員長挨拶)
事務局	<u>3 議題</u> (1) 第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について
委員長	それでは、以後は私から議事の進行を務めさせていただく。 議題 (1)「第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について」を事務局より説明いただく。
事務局	(資料4に基づき、事務局より説明)
梶山委員	推進委員会の上位の組織はあるか。ここで決定したことが計画の決まりになるのか。 また、推進委員会と見直し検討委員会を一緒にする事は検討していないのか。
事務局	本推進委員会で議論した内容を庁内素案として作成し、7月24日の見直し検討委員会で各分野の委員によって議論していく。来年の1～2月に地域別懇談会の開催を考えている。最終的にはパブリックコメント後に都市計画審議会へ諮問し、承認をいただく流れとなる。計画の検討組織に関しては都市計画審議会が上位組織となる。
梶山委員	部長職の会議には諮らないのか。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	諮る予定はない。推進委員会で素案を検討し、見直し検討委員会で案として決定した事項が都市計画審議会に上がる。
野崎委員	部長職には庁議で報告するのか。
事務局	マスタープランの骨子を整理した段階で素案を中間報告として庁議で説明するか、照会形式で庁内に内容を確認いただくか、共有してご意見を伺える機会を検討する。
東口委員	立地適正化計画が上位となっているが、私の認識では都市マスタープランが一番上位と理解している。関連性を説明いただきたい。
事務局	資料説明に誤りがあった。立地適正化計画は都市マスタープランの一部であり、関連計画である。
東口委員	「都市計画マスタープラン」ではなく、「都市マスタープラン」なのか。
事務局	自治体によっては「都市計画マスタープラン」と呼んでいるものもあるが、戸田市では第1次より「戸田市都市マスタープラン」となっており、「都市マスタープラン」で統一させている。
東口委員	立地適正化計画は上位関連計画との記載になっているが関連計画ではないのか。
事務局	立地適正化計画は関連計画であるので、誤解が生まれないように「上位関連計画」ではなく、「上位及び関連計画」として上位と関連を区切る表現とする。

発言者	議題・発言内容・決定事項
熊木委員	住民意向調査は令和4年度で間違いないか。
事務局	<p>令和4年度の実施である。</p> <p>当初、都市マスタープランは令和5、6年度の2カ年で改定を予定しており、その1年前の令和4年度に住民意向調査を実施した経緯がある。その後、総合振興計画の方針を踏まえるにあたって令和6、7年度の総合振興計画の改定作業が予定されたことから、本プランも1年先送りして検討することになった。</p>
事務局	(資料5に基づき、事務局より説明)
東口委員	資料5の1pの第1章1に、都市マスタープランの改定とあるが、今回は第3次都市マスタープランの策定ではないか。
事務局	ご指摘のとおりである。策定に統一する。
東口委員	13pの(2)産業に係る現状及び課題で、印刷関連、食料品製造業は昔から多いが、最近は物流倉庫の方が多くなっていると感じる。資料は根拠に基づいているのか。
野崎委員	今はデータを持ち合わせていないが、対産業では倉庫業が多いと感じている。「SDGs 未来都市選定のための基本計画」策定時に、戸田市の産業の特性を確認したが、もし相違があるなら修正していただきたい。
事務局	<p>補足として資料編12pの図1-19で、上位が印刷業になっており、これを根拠に説明している。市内には印刷業や食品業が自社で倉庫を保有しているケースも多くあるので、物流業が保有する倉庫がどの程度の割合を占めているのかは確認する必要がある。資料が2020年時点なので、事務局で把握できる最新情報を改めて確認する。</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
東口委員	印刷業の構成比が高いという判断は、従業員数で判断しているのか。
事務局	従業員数である。
野崎委員	倉庫というカテゴリーが各産業に分散していると考えられる。
委員長	いただいた情報・ご意見を元に改めて表現をどのようにするのか事務局にて精査すること。
梶山委員	<p>戸田市では、2008年を起点として総人口が約20%増加しているが、0～9歳の人口は約7%減少している。一方、外国人住民は約2倍増加しており、総人口の約6%弱が外国人住民である。人口増加を外国人に頼っている部分があり、外国をルーツとする方の人口変動を都市マスタープランに加味する必要はないか。</p> <p>データとして、市内東部の小学校では約2割が外国籍の子供である。逆に、日本人住民は2016年以降出生率が低下しており、約30%減少している。まちづくりの視点でも、外国籍住民向けの施策を考えていかなければならない時代ではないか。</p> <p>また、転入・転出については、20歳から25歳の転入が最も多いが、この年齢層は3年から5年で約7割が転出する。高齢者の転入が多いのは施設入所ではないか。</p>
事務局	高齢者の転入については、埼玉県は全国で3番目に高齢者施設の数が多いことが考えられる。
梶山委員	20歳から39歳の方々が定着できる施策を考えていかななくてはならない。これまでは教室不足で、学校を増改築してきたが、出生率の低下等によりある程度の見込みもたってきた。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	外国籍の転入を調べて検討する。今後の少子化対策や、20～39歳の子育て世代が安心するまちづくりについても検討する。
委員長	ユニバーサルデザインに配慮したデザインもしっかり位置付けて取り入れていただきたい。
事務局	承知した。
熊木委員	転入率について、見直し検討委員会で使う資料はこれなのか。別の資料を使うのか。
事務局	今日使用した資料をベースにいただいたご意見を加味してまとめたものを資料にする予定である。
熊木委員	20代、30代前半の子育て世代というところで、囲むのは30代前半までになっているが、85歳以上の転入率が多いというのであれば、85歳以上と比較して数値の大きい39歳まで拾うべきではないか。
事務局	ご指摘いただいた通り、39歳までを赤枠で含むようにする。
梶山委員	20歳から39歳が、一般的な人口推計の括りから見てもしっくりする。
委員長	20歳から39歳を赤枠で囲うように資料を修正すること。 また、総合振興計画との整合を図ること。
事務局	8月中旬に総合振興計画における人口推計を担当課から共有される予定である。次回の議題に追加情報で示し、人口推計の変更点も説明する。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>(2) その他</p> <p>後日、共創企画課で各所属へ第5次総合振興計画について、ヒアリングシートを送付するが、各所属の回答の中で、都市マスタープランに関する意見の有無を都市計画課で確認し意見があれば、個別にヒアリングし、記載内容を調整するため、ご協力いただきたい。</p>
委員長	<p>その他意見、質問はあるか。なければ終了する。</p>
事務局	<p>次回開催は11月を予定している。詳細は決まり次第連絡する。</p>
事務局	<p><u>4 閉会</u></p> <p>委員各位におかれては、多忙の中出席いただき感謝申し上げます。以上をもって、第1回戸田市都市マスタープラン推進委員会を閉会する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>